

第13回 第1分科会会議録（概要）		場 所	新宿区戸塚特別出張所 地下1階集会室
日 時	平成17年12月13（火） 午前10時30分～午後12時30分	記録者	【学生補助員】 田多井さやか 古谷聡子
		責任者	区事務局（菊地、並木）
<p>会議出席者：25名 （学識委員：2名 区民委員：18名 区職員：5名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>① 新宿区民会議 第1分科会（第13回）次第 ② 第12回会議録 ③ 提案整理表 ④ 第14回・第15回開催通知</p> <p>■進行内容</p> <p>1 本日の進め方 2 中間発表会WGからのお知らせ 3 グループ再編成 4 グループ討議 5 その他（事務局）</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1. 本日の進め方</p> <p>○：（並木）</p> <p>おはようございます。今日は今年最後の分科会になりました。時間になりましたので始めさせていただきます。</p> <p>今日の司会は小原委員になりましたので、よろしく願いいたします。</p> <p>●：（司会：小原）</p> <p>おはようございます。司会を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の進め方についてですが、まず、来年2月19日に行われます中間発表会に向けて、ワーキンググループ（以下WGとする。）が開かれています。第1分科会からは、高山委員と森田委員が出席されましたが、そちらから会議の報告をいただきます。その後、今まで組まれていたグループの再編成をいたします。その新しいグループで、今日は討議する予定です。最後に事務局から事務連絡があります。</p> <p>まず、WGから報告をお願いいたします。</p>			

2 中間発表会WGからのお知らせ

● : (WG : 高山)

おはようございます。昨日(12月12日)区役所で、18時30分よりWGの会合がありました。集中的に中間発表会までの準備と当日の大まかな運営について話し合いを持ちました。その結果として、2月19日の朝10時から、おそらく3時間程度になると思うのですが、6グループ通して各グループの発表を行うことが決まりました。その後、場所の設定を変えて、分科会ごとに分かれ1時間程度の意見交換と他のグループとのコミュニケーションができる場を設けることになりました。また、事前準備として第1分科会は広報関係を受け持つことになりました。一般の区民の方にできるだけ多く参加していただけるようにしたいと思います。ご協力お願いいたします。広報などに載せてアピールできればと考えています。なお、WGにつきましては、来年1月にも回を重ねて準備をしていくことになっています。大まかには以上です。

3 グループ再編成

● : (司会 : 小原)

次にグループの再編成についてですが、本日事前の班長会議(6グループのリーダー会議)にて、新しいグループをどう編成するかについて話し合いました。お手元の提案整理表のとおり、乳幼児・小学生グループ、中学生・高校生・青少年グループ、親への支援グループの3つのグループに分けることになりました。編成の仕方についてはいろいろな意見があるかとは思いますが、時間もあまり取れませんので、とりあえずこのグループで2月19日まで話し合いを進めてもらいたいと思います。このあたりを高山委員から、もう一度説明していただきます。

● : (高山)

いろいろ議論があるかとは思いますが、一応この3つのグループに再編成して進めていきたいと思います。提案整理表の上のほうに10個程度の項目がありますが、これらは学識の汐見委員と杉山委員からアドバイスをいただいたもので、各グループが頭に置いておいて検討してほしい事項です。班長会議でも妥当性を得ましたので、これらを加味して今後の討議を行ってください。

また、グループについては、現在の乳幼児グループの委員は、原則としてそのまま乳幼児・小学生グループに移っていただきます。次に、今までひとつだった小学生・中学生グループを分けましたので、興味のあるグループに分かれていただきたいと思います。次に、現在の青少年グループも原則として、そのまま中学生・高校生・青少年グループに移っていただきたいと思います。親への支援グループは、親ステップアップのグループを中心としてグループをつくっていききたいと思います。子育てのための環境と地域の中での子育てグループの委員は、全体の均等をとることも必要だと思

いますので、人数の少ないグループに参加していただきたいと思います。ただし、委員の強い希望がありましたら希望のグループを選択してください。なお、提案整理表にある視点については、汐見委員と杉山委員からご意見をいただきましたので、学識委員からお話をいただきたいと思います。

● : (司会 : 小原)

では、学識委員から今後グループ討議をするにあたってのアドバイスも含めお願いいたします。

◎ : (杉山)

おはようございます。視点については前回あたりから汐見委員と一緒に提案してきたものと次世代育成支援計画の項目から出してみました。今まで議論してきたことをここに落とし込めるといいます。また、その作業をすると、おそらく偏りが見られるだろうと思います。その足りない部分、薄い部分を意識してください。各々すべての項目を網羅する必要はなく、3つのグループで表の穴が埋まるような討議をお願いします。すでに話し合っただけ方向性が見えているところを話すというよりは、抜けている部分の議論をしてください。バランスのよい中間提言ができるように心がけてください。また、新グループは3つのグループに分けますが、子育ての環境など全体的に押さえておくべきことを常に思い出しながら、第1分科会の全体会やグループ会議でも意識して討議を行ってください。分からないことがありましたら、そのつど相談しながら、一緒に良いものをつくっていきましょう。

● : (司会 : 小原)

ありがとうございました。では、グループを再編成します。会議室の奥から順番に、乳幼児・小学生グループ、中学生・高校生・青少年グループ、親への支援グループとしますので、各委員は希望のグループに異動してください。

新グループ編成

乳幼児・小学生グループ : 小原・石井・亀井(治)・小林(貞)・長谷川・森田・〔末吉〕

中学生・高校生・青少年グループ : 陣出・秋田・小津・高山・野原・山田・渡辺

親への支援グループ : 田谷・上野・大内・荻生・柏木・〔工藤〕

※〔〕内は本日欠席であるが、事前に希望が出された委員

大体バランスが取れたので、これでいきたいと思います。そうしましたら、今日中に行っていただくことですが、各グループのリーダー、サブリーダーを決めてください。また、今日の司会と書記もお願いします。まず顔合わせをしていただいて、提案整理表をもとに各グループで話し合ってきたことを表に記入し、抜けているところを検討していただきます。次に、グループとして今後提案していくテーマを議論してください。最終的には前回作成した中間発表に向けてのレポートのようなものを、この

グループで作成することになると思います。今日は12時になりましたら、各グループの進捗状況を発表していただきたいと思います。

最後に、前回の分科会で各委員の発表時間を制限したらどうかという意見が出ました。班長会で2分といたしました。事務局から時間になりましたら合図が出ますので、その時間内で発表できるように整理してください。よろしくお願いします。

4 各グループ討議

5 進行状況発表

● : (司会 : 小原)

みなさん、グループ討議お疲れ様でした。それでは各グループ2分以内で進捗状況を発表してください。最後に汐見委員からアドバイスをいただいて、今日は終わりにしたいと思います。今回は各グループの新リーダーが発表して下さい。

● : (小原)

まず、乳幼児・小学生グループから発表します。今日はあまり話がまとまらなかったのですが、視点のほとんどは地域再生というテーマで、かなり解決していこうという話の方向になりました。ただし、地域再生すればすべて解決するというのでは説得力に弱く、イメージが湧きにくいのではないかということになりました。問題は、各地域でいろいろな試みがされている中で、それをまとめる役割がないことです。新宿区やそれ以外のNPOが既に始めていますが、一貫していません。そこで、区民会議をきっかけに全部をまとめるようなひとつのビジョンをつくりあげる協議会のようなものをつくりたいという思いがあります。その協議会が、明確なビジョンを示して各地域に指令を出していくようなものにしたいという討議でした。各自の宿題として、その具体的な活動方法を地域に即して考えていきたいと思います。また、視点の「新生児からのかかわり」については乳幼児・小学生グループでは出しにくいので、親への支援グループであるのなら、ぜひそちらのグループで検討してほしいという意見が出ました。その際には、子供の立場に立っての親支援という観点で検討してほしいということでした。

● : (司会 : 小原)

では次に中学生・高校生・青少年グループの進捗状況をお願いします。

● : (陣出)

旧小・中学生グループでは、中学生の検討がまったく行われていない状況でしたので、旧青少年グループの施策をたたき台にし、整理表を埋めていきました。多くの部分が埋まったのですが、「外国籍住民への支援」、「障害児等への支援」、「配慮が必要な子どもと家庭への支援」という部分が抜けていましたので、今後、討議をしなければならない部分だと思っています。今後の方向性なのですが、中学生の部分の現

状が分からないという状況で、施策をそのまま話し合うのはどうなのかという問題がありました。したがって、現状を把握していくべきということになりました。校長会などの管理者側のビジョンがどういったものなのかを、ヒアリングやアンケート形式などで質問を行うことを検討しました。また、管理体制だけではなく、現場ではどのようなになっているのかということも含めて中学校などへの見学会をしたいという意見も出ました。今後としては、旧青少年グループの施策をたたき台に、中学校への施策を考えていきたいと思っています。

●：（司会：小原）次に親への支援グループをお願いします。

●：（田谷）今日は親ステップアップの頃と変わらないメンバーでの討議でした。工藤委員が新しく参加するそうなので、次回以降は私たちの意見に加わっていただきたいと思います。前回のレポートでは、Hop・Step・Jumpの各段階でテーマをまとめたので、今日はそれらが提案整理表のどの部分に入っていくかということを討議しました。

基本的にはすべての視点にHop・Step・Jumpのいずれかを埋めることができました。表現的な問題と、「企業・NPOとの連携」というところがJumpの参加型講習会で増やして入れられるかと考えています。参加型講習会の中では、子どもの参加というのにも入っていますので、Jumpを入れました。以下順番に、「世代間の交流」にHop・Step・Jump全部を、「地域の人材育成」Hop・Step、「子どもや親の居場所づくり」にHop・Jump、「子どもの参加・参画」にJump、「新生児からの関わり」がHop、「子育てに配慮したまちづくり・環境」がHop・Jump、「外国籍住民への支援」がHop、「障害児等への支援」もHop、「配慮が必要な子どもと家庭への支援」がHop、「企業・NPOとの連携」がJump、「行政組織の見直し」がHopというような形でひとつずつ入れました。そこで、どういうところに関わりが持てるかが分かりましたので、それぞれについて具体的な支援を考えていけば、親への支援グループの考えがまとまっていくと思います。

また、企業には、家庭教育的な部分への参加を協力していただきたいと思っています。妊娠して母子健康手帳をもらいに区の窓口に行った時に、参加型講習会のお知らせも配ってもらい、講習会に参加してもらいます。企業は妊娠した社員が参加できるように支援してほしいと考えます。社員が地域に早くから足を踏み入れる機会を与えてもらえるような関連づけを企業が持ってもらうとか、企業の中で勉強会のようなものを個々で開いていただくとか、ネットワーク化していただくという部分を掘り下げて提案しようと思っています。グループのリーダーは上野と田谷が兼任します。

以上です。

●：（司会：小原）

ありがとうございます。視点の項目の中で、うちのグループは網羅できそうにないところから分かっているグループはないですか。

● : 質問なのですが、先ほど中学生・高校生・青少年グループで挙げました、「外国籍住民への支援」、「障害児等への支援」、「配慮が必要な子どもと家庭への支援」の中の、特に後ろ2つについて、第1分科会で議論するということですが、他の福祉に関連する分科会とリンクすると思います。どこまで討議を行ったらいいかと思ひまして質問しました。

○ : (菊地)

第2分科会が高齢者・障害者について扱っています。ただし、そこが障害を持った子どもの部分をどこまで掘り下げて討議しているかは分かりません。

● : 分かりました。

次に意見として、視点に「学校の教育制度」という項目があったほうが良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

○ : (並木)

それでは、学識委員から質問の回答も含めてコメントをいただこうと思います。

◎ : (汐見)

今後、作業ができるのは、実質2ヶ月です。その間に、また新しく見学に行ったりするのは大変だなあと思ひながら聞いていました。一応、バランスを考えて各グループとも時間配分をしていただきたいと思います。

この提案整理表はどうしても立体的なものを平面にしているという問題があるので、微調整が必要と思ひます。カテゴリーに分けていきますと、乳幼児・小学生では「子どもの育て」と「子ども自身の育ち」という部分、つまり乳幼児を育てている親をサポートするのと、子どもたち自身が新宿というまちで、豊かに育ちあっていく子育てを応援していくという二つの視点があります。また、中学生・高校生・青少年でも同様のことが言えます。思春期の子どもを育てる親の大変さや、あるいは学校教育の中での思春期にある子どもの扱いの難しさ、一方で、子どもたちは自分を表現できる場や集える場を探しています。そういう場がなければ、孤立してしまうし、引きこもってしまうわけです。ですから、子育ての悩みを抱えた親をどうサポートするか、学校での軽度発達障害の子どもへの対応の仕方に対して先生方をどうサポートするかということも出てきます。そういう問題と、直接子どもたち自身が育ちあっていく場をどうつくっていくか、そのチャンスをどう提供していくかということは、カテゴリーの上で分けられるわけです。そして、親への支援には乳幼児・小学生と中学生・高校生・青少年の「子育て」の部分に関連してくるわけです。

乳幼児・小学生と中学生・高校生・青少年の子育てをしている親をどうサポートしていくかということは、親への支援とリンクすることになります。ですから、例えば「外国籍住民への支援」では、外国籍のお母さんの子育てをどう応援するかということと、外国籍の子どもたちが集まる場所をどうつくっていくのかという二つの面を含むことになります。そのあたりの二重構造をもう少し整理していかないといけないと

思います。

また、提案整理表の項目の中で、「子どもや親の居場所づくり」や「子どもの参加・参画」は「子育て」になります。このような欄は非常に書きやすいわけです。しかし、「配慮が必要な子どもと家庭への支援」では「子育て」と「子育て」のどちらも含まれます。ひとつの項目の中に二つ入っているものとひとつで済むものがあり、どう整理していくかについてはもう少し考えていかななくてはならないのです。その際、二つ入っている項目に関しては、各グループで議論したことを全体での議論の中で突合せをしなくてはならないという作業が出てきます。

さしあたりは今の議論を続けていただきたいのですが、効率的に進めていくためには、最初から項目ごとにひとつのグループに割り当ててしまうか、それぞれのレポートを再度検討するかについては、もう少し考えないといけないと思います。

今から2ヶ月しかありませんので、杉山委員が説明したように、全ての議論をしている時間はないと思います。ですから、大事なところなのに抜けていると思われる部分を重視していただきたいのです。では残った部分はどうかということなのですが、これまでの基本計画と次世代育成支援計画の中で出ている部分を整理表に、はめ込んでみて、今回は議論できなかったが、納得はできるという旨を断って、それ以外の提案を出したということにしたいと思います。このようにして、全体のプランを埋めていっていただきたいと思います。最終的にはこの分科会の目玉である部分は二重丸等を記し、実現に向けて強くアピールしてほしいと思います。

しかし今の段階では、大切であるのに弱いと思われる部分を中心に検討していただきたいと思います。並行して、これまでの次世代育成支援計画と基本計画の中で大体の施策は出されています。ですから、踏襲できるのではないかと考えられるところは、提案整理表にはめ込んでいっていただきたい。そうしますと、この表が全部埋まるようになると思います。そのうえでグループごとの議論を全体で再調整するという作業プロセスになると思います。

ご質問ありませんか。

●：新生児からの関りという部分がよくわからないのですが、これはどういうことでしょうか。

◎：(汐見)

新生児からのということではなく、妊娠中からのということに解釈してください。妊娠している人が事前に勉強したいという時に、保育園という場所が非常に良いのではないかと。保育園が妊娠中の親に対してオープンになるという提案などが考えられます。

●：親へのサポートの部分しかないと思うのですが。

◎：(汐見)

項目によって親の支援のみのところもあります。ですから、そういうところは書きやすいのです。両方含まれているのが実際にはたくさんあります。

●：マトリックスに従って進めていくと、具体的な政策等が網羅できると思うのですが、それを具体的に展開する方法論や望まれる社会のビジョンや理想をどのように盛り込んで行くのでしょうか。

◎：(汐見)

最終的にはもう一度、部品を立体に組み立てていく作業が必要になります。今のところ、それぞれの課題があり、このようにしたら良いということが個別に出てきています。その中で、これとこれはひとつのものとしてくくり、こういう手立てで進めていくと全体が動きやすいのではないかという、行動に移すための「アクションプラン」のようなものを、もう一度どこかで議論しなければならないと思います。

それから最初におっしゃってくださったように、「どうしてこのようなことをやるのか」、「それはこういう社会をつくりたいためだ」という部分を、もう一度どこかに記述しなければいけません。最終的な分科会の提案としては、みんなが笑顔で互いに喜び合って子育てができるということは、「これだけのことが整わなければいけない」ということが出てきて、それをこの新宿のまちで実現していくには、「こういう柱が立ちました」ということが叙述されて、そして個別の具体化プランとして「このようなものを提案します」という、そのような構造になっていくと思います。それは必ず書き込みしなければなりません。したがって、個別の行動プランをもう一度、立体に積み上げていって、「こういう方向を向いています」ということをしなければなりません。

●：現行の新宿区基本構想の表題テーマにしたがっていくということですか。

◎：(汐見)

基本構想の組み立てとしては書きやすいと思います。ただし、私たちは下から、基本構想は上からという違いはあるかもしれませんが、結果としてそんなに違わないかもしれませんが、「こういう社会をつくりたいから、このようなプランをつくった」ということを意識しながら叙述したほうが良いと思います。これは最後のまとめの作業ということになります。

●：(山田)

「子育てに配慮したまちづくり・環境」と「子どもや親の居場所づくり」の違いはどのようなものでしょうか。「子どもと親の居場所づくり」の方は比較的わかるのですが、「子育てに配慮したまちづくり、環境」の方が少しわからないところがあります。

◎：(汐見)

居場所に重点があると思ってください。

◎：(杉山)

どちらかというと、高齢者や障害者のところとも関係してくると思いますが、交通バリアフリー法やハートビル法のようなハード面の法律というのはだいたい「高齢者、障害者など」ということで子どもや子連れの親にはあまり配慮されていません。そういったところで、点ではなく面でまちを見た場合の環境としてどうなのか。特に全体会に

入ったときに、「子どもの目線で見るということはこういうことなのです」ということを高齢者や障害者をテーマにしている委員やまちづくりを中心に検討している委員と議論が必要になってくると思います。その時に、説得力を持ってものを言えるようにしておいてほしいという意図があります。

先ほど、「他の分科会でテーマとしている障害児のことも、この分科会でやるのか」という質問があったと思いますが、第2分科会では障害者については当然検討していますが、障害児はあまり検討していないと私は思います。ですから、ここできちんと「障害を持つ子どもはどうなのだ」ということを押さえておかないと、全体会では何も言えない、意見が出せないと思いますので、そのところを意識してほしいと思います。

補足ですが、みなさんの意見を聞きながらこの整理表を見て思ったのですが、「その他」の欄に入れるか、新たに項目だしするかは別として、例えば中学生、高校生、青少年では経済的に自立していけるように、「働く」という視点での自立支援が必要だろうと思います。また、「地域の中でどう生きていくか」という視点も必要です。また親への支援では、親への支援として、「夫婦関係」とか「女性の再就職」、「夫の働き方—どうやって家庭に入っていくのか—」という部分、「経済的な援助」などが入ってくるのではないかと思います。いろいろな方面から攻めていただけたらと思います。

◎：(汐見)

「子育てに配慮したまちづくり・環境」は「子育てバリアフリー」のようなものも入ります。例えば、子ども関係のイベントが開催している情報や診療している病院の情報は、どこへ行ったら分かるのかというような「情報提供の場、環境づくり」を考えていただきたいということです。

また、先ほどの提案整理表の視点の項目に「学校の教育制度」を付け加えたいと言う意見がありました。今のところは「その他」に入れていただいて、今後もまだ出てくると思いますので、それはどんどん付け加えていただけたらと思います。また、先ほど、杉山委員からもありましたが、国として中高生のニート対策が大きなテーマになっています。若い人がうまく就職できない現状があります。それは受け口が狭いということと、本人の準備もできていない状況で、突然、社会に出されてしまうという問題があります。三鷹市ではニートや不登校になった子どもたちを集めて、社会に出て職に就く前の練習をするために彼らだけでつくったパン屋さんがスタートしました。製造から販売まですべて彼らだけで行います。これはおもしろい活動だと思います。そういったことも含めて中高生の社会への参加という意味で、これは「子どもの参加・参画」というところに入ると思います。

さらに、どこの自治体の子育て支援育成計画でも、日本の子育てを見た時に、夫婦が協力して家事や子育て等をやっていく際に、夫婦関係がどう変わっていくかという視点がすごく弱いと感じます。「子どもにとって良かった」、「自分にとって良かった」ということは意見として出てくるのですが、「夫婦関係がすごく良くなった」というところは出

てこないのです。どうもそこが日本の弱点ではないかと思えます。子育ての弱点というのは潜在的には夫婦関係がとて大きいので、それをうまくつくっていくためのサポートを考えていくことが大事なのではないかと思えます。前にも触れたかもしれませんが、アメリカではプレマリッジ教室というものがありまして、結婚する前にカップルで受講して、結婚したら直面するであろう問題を練習問題として出題し、二人で議論しなさいというものがあります。参加したカップルは「ものすごく勉強になった」と言います。そうしたことも含めて、夫婦関係やカップルへの支援というところも視野に入れていただきたいと思っています。

次に、青少年の中には心の病に近いものを抱えてしまう人が増えていて、その人たちに対する対応が先生たちにもよく分からないという現状があります。ですから、そうした子どもたちへの対応を学ぶ場を、先生たちと一緒につくっていかねばならないのかもしれませんが、これは提案でも良いと思えます。そのようなことも含めていただきたいと考えています。

全体としては、現在のような社会になると、溜まったストレスがだんだん弱いもの、つまり子どもたちに向けられ、小さな子どもたちが殺されてしまう。だから、大人が必死になって子どもを守らなければなりません。つまり、子どもが安心して生きる権利を大人が保障しなければなりません。そうしたものは総論に出てくるのかもしれませんが、各グループでも子どもの権利を考えて、もう一度議論していただきたいと思えます。

短い間で大変な作業が待っていると思いますが、今までのものを最大限活かしながら、ここだけは議論しなければというところを選んで進めていただければと思います。

●：(司会：小原)

ありがとうございました。

次回はもう来年1月になります。逆算しますと、2月19日の発表会の前の2月16日の分科会は19日の発表の練習をしますので、残りが1月の2回と2月の前半の1回しかありません。したがって、次回はこの提案整理表が完成しないと先に進まないと思えますので、次回までにこの表が完成できるように各グループの宿題として持ち帰ってください。それから、事務局には、区の政策をこの表に落とし込んでもらうことが必要なので、作成して送ってもらえればと思います。

2月9日の分科会の時点では、各グループが発表したことを踏まえた全体を統一したものをつくる必要があると思えます。そうしますと、1月26日の分科会には各グループが発表できないといけません。ですから、その辺りまで簡単に各グループで話し合ってから、本日は帰っていただきたいと思えます。

最後に、事務局からの連絡になります。

○：(並木)

お疲れ様でした。最後に事務局のほうから連絡です。お配りした資料の中に第14、15回の開催通知があります。(下記参照)

開催通知の正式なものは第14、15回のものだけなのですが、口頭でそれ以降について
もご報告しておきます。(下記参照)

第14回

日時：平成18年1月10日(火)

午前10時30分から午後12時30分 予定 (昼間)

場所：区役所第二分庁舎(旧四谷第五小学校)1-⑦会議室

第15回

日時：平成18年1月26日(木)

午後6時30分から午後8時30分 予定 (夜間)

場所：区役所第一分庁舎 7階研修室

第16回

日時：平成18年2月9日(木)

午後6時30分から午後8時30分 予定 (夜間)

場所：区役所第一分庁舎 7階研修室

第17回(中間発表会に向けてのリハーサル)

日時：平成18年2月16日(木)

午後6時30分から午後8時30分 予定 (夜間)

場所：「ゆったりの」(住所や地図等の詳細は、後日の開催通知に記載します。)